

標準的単金方式について

首都高速道路株式会社

対象資産の例

照明ポール、高欄照明、橋下照明、舗装、ガードレール、遮音壁、道路情報板

標準的単金の設定方法

○対象資産につき、資産を構成する構造物種別ごとに、直近年度(平成16年度)の標準的な工事設計書に基づき、標準単金を設定

○標準的単金に棚卸数量を乗じて直接工事費を算出。

○標準的単金設定のステップは次のとおり(カッコ内は照明ポールの例)

単金に影響する要因の分析(形状・・・S型、Y型、高さ・・・高、低)

→ 単金を設定する構造別種別の決定(形状ごと高さごとに設定)

→ 標準的な工事設計書の選定

→ 標準的単金の設定

構造別種別の例(照明ポール)



Sポール



Yポール



Lポール



LYポール



Hポール

標準的単金の設定例(照明ポール)

(単位:円)

区 分	標準的単金(工事費)
Sポール	479,000
Yポール	749,000
Lポール	337,000
LYポール	583,000
Hポール	1,820,000

標準的単金方式による再調達原価の算出方法

工事費		労働費	工事施行管理委託費等	建設中金利	再調達原価 Σ
	標準的単金				
①	②	③	④	⑤	⑥

- ① 資産小区分ごとに設定した標準的単金に、各々の棚卸数量を乗じて計算した数値の合計額
- ② 直近年度(平成16年度)の標準的な工事設計書に基づき設定
- ③ 道路管理上使用している図面、台帳等に基づいて数量を把握
- ④～⑤ 直近年度の直接工事費に対する比率を用いて算定
(⑤:工事施行管理委託費、測量試験費、営繕費、工事雑費等)
- ⑥ 直近年度の金利を用いて算定

照明ポール(Sポール)の算出例

○ 平成16年度末価格を算出

(16年度価格、単位:円)

工事費		標準的単金	棚卸数量	労務費	工事施行管理委託費等	建設中金利	再調達原価 Σ
479,000	479,000						

標準的単金:材料費 195 千円+工事費 160 千円+諸経費 124 千円

労務費:479,000 円×5.524%=26,460 円

工事施行管理委託費等:479,000 円×4.563%=21,858 円

建設中金利:479,000 円×2.381%=11,405 円

照明ポール(Sポール)の算出例

○ 平成17年度末価格を算出

(単位:円)

16年度 取得価格	17年度上半期 デフレーター	17年9月末 取得価格
538,723	1.005	541,417

※ 17年9月時点に補正するため、取得価格の諸要素を勘案した加重平均デフレーター 1.005 を乗じた。

※ この取得価格を基に、経過年数に応じた減価償却計算を実施していて、評価調書の額とした。